

町田つまサッカークラブ活動方針

2019.3 町田つまサッカークラブ 指導部

町田つまサッカークラブ（以下、つま SC）では、以下を活動の理念・方針として定め、選手の育成を行います。

【活動理念】

つま SC では、サッカーを通じて『身体を動かし運動習慣を身につける』とともに、『礼節・礼儀や思いやり、協力の精神など豊かな人間形成』に努め、心身の健全な成長を促します。

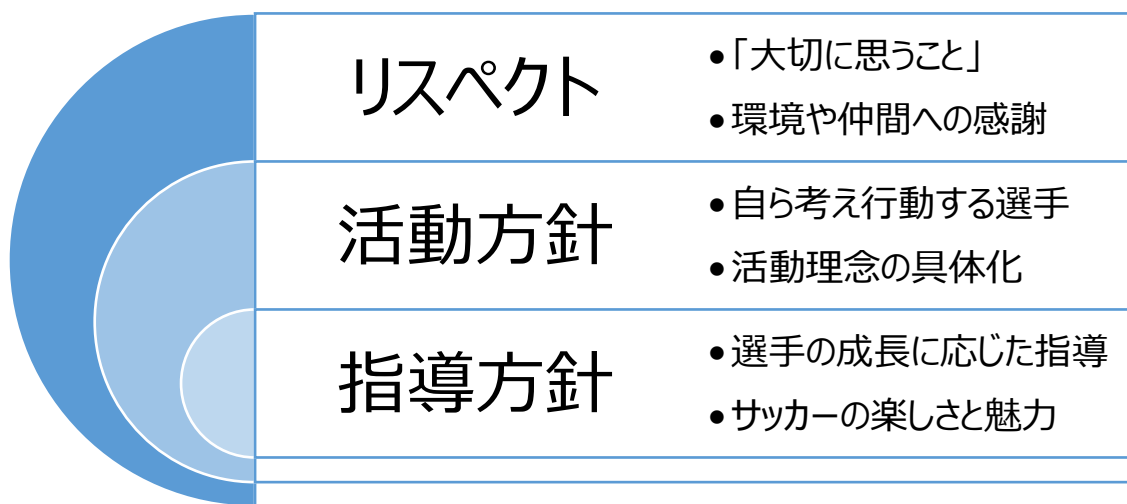
また、サッカーの楽しさを知ってもらいながら、ジュニア年代（～U-12）で活躍できる選手の育成だけにとどまらず、次の世代にもつながる育成を考えます。

日々のトレーニング・試合を通じ、選手とともに指導者も成長するために、以下の継続的な努力を行います。

- いかなる目的であっても暴力（直接的なものや言葉の暴力）を用いず・許さず、これを排除すること
 - 選手に必要なトレーニングメニューの考案、サッカーや育成に役立つ情報を積極的に収集すること
 - 「しつもん」などを利用して選手のやる気を引き出し、コミュニケーションをとることにより選手と指導者が共通意識をもって、『一緒に成長する』姿勢をもつこと
- ⇒ 選手それぞれの考えを知り、必要な環境やサポートを提供することを意識し育成にあたることとし、指導者の独りよがりな、一方通行の「指導」とならないことに留意する

こうした継続した努力が、やがて選手やチームに大きな成長をもたらすことを私たちは信じ、活動します。

【全体像】



・リスペクト（JFA リスペクトプログラム：http://www.jfa.jp/football_family/respect/）

リスペクトとはフェアプレーの原点で、敬意を表する、尊重するという意味がありますが、JFA ではサッカーにかかわるあらゆる人（チームメイト・対戦相手・指導者・審判・大会役員・保護者・応援）や物（ルール・施設・道具）をお互いに「大切に思うこと」と定義しています。つま SC でも「大切に思うこと」をベースに活動していきます。

・活動方針

活動理念を具体化し、5つの活動方針（次ページ）を定めます。

・指導方針

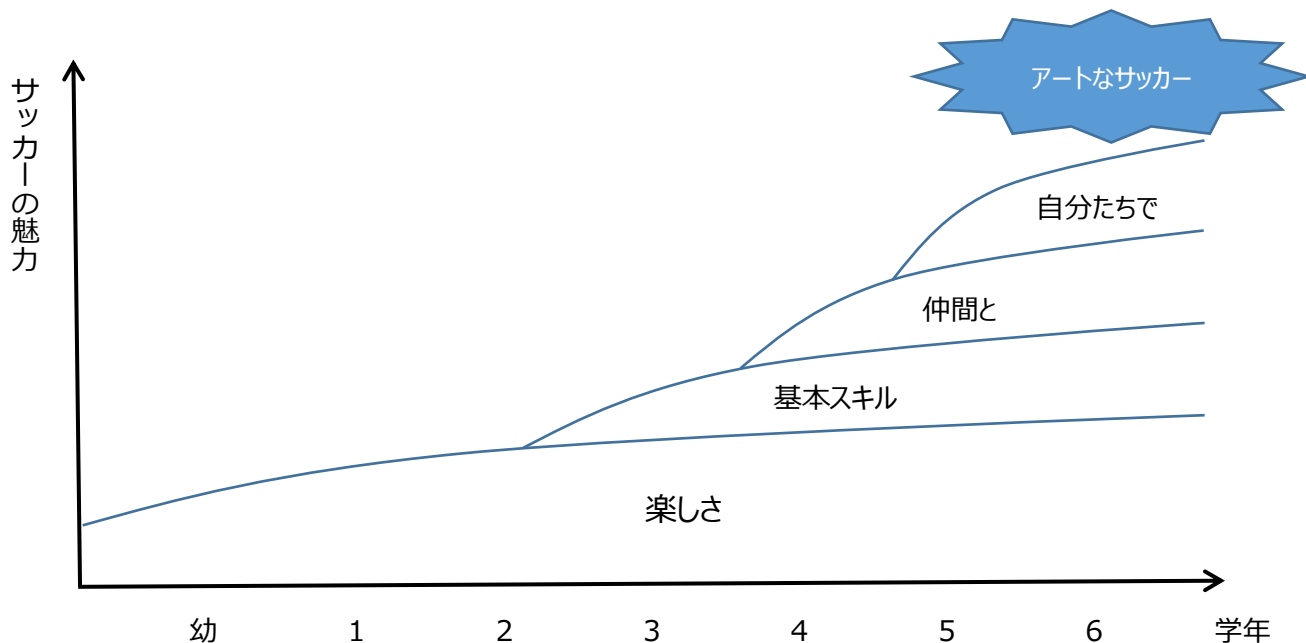
リスペクト・活動方針をふまえ、選手の成長に応じた指導方針（次ページ）を定めます。

【5つの活動方針】

1. あいさつをしよう！（礼節・礼儀を身につける）
家族、仲間、対戦相手、審判など、自分のサッカーにかかわるすべての人への感謝と、リスペクトすること（敬意を持ち、たいせつに思うこと）の大切さを伝えます。あいさつは、コミュニケーションの第1歩であり、リスペクトを生みます。自らが積極的にあいさつできる、そんな選手を育てます。
2. ルールを守ろう！（規律を身につける）
家庭や学校にルールがあるように、サッカー自体やチーム内のルールを教えることを通じ、規律の大切さを伝えます。
3. 仲間づくりをしよう！
仲間と一緒に助け合い、協力してプレーすることを目指します。
仲間と一緒に目標に向かって努力すること（チームワーク）の大切さを伝えます。
4. サッカーを楽しもう！
ゴールの喜び、勝利の喜び、上達の喜びなどを体感することで、自由な発想・想像力をもって、いろいろなことにチャレンジ、全力をつくすことができる、そんな選手を育てます。
5. 自分で考え、自分で行動しよう！（自主性・実行力を身につける）
サッカーでは、フィールドに立つ選手は自由です。この自由をより楽しむには、自ら工夫し、自らの意志で動くことが大切であることを伝えます。つま SC での活動を通じ、サッカー以外の日常生活でも自立・自律した選手を育てます。

【成長に応じた指導方針】

選手の成長には個人差がありますが、学年を目安として指導のガイドラインを定め、これを軸として選手のレベルに応じた指導をおこないます。



- 幼稚園児、1年生、2年生
 - ・ボールをさわることや体を動かすことが楽しい！と感じ、自分から「グラウンドに行きたい！」と思ってもらえる環境づくり
 - ・子どもたちがサッカーの楽しさに気づくための大切な時期、サッカーに生きる遊びなども取り入れてサポート
- 3年生
 - ・個人スキル習得を目指し、特にドリブルで相手を抜くための技術とその楽しさを伝える
 - ・チームスポーツであること、チームの中でふさわしいふるまいとは何かを仲間との関わり合いを通じて伝える

●4年生

- ・サッカーの重要なスキル「止める・蹴る・走る」を高め、全員攻撃、全員守備の意識をチーム全体で共有する
- ・ゴールデンエイジと呼ばれる年代、いろいろな課題に繰り返しチャレンジして成功と上達の喜びを体験する
- ・指導者が答えを与えるのではなく、選手たち自身が考える機会を持つなど、そうした環境をつくる

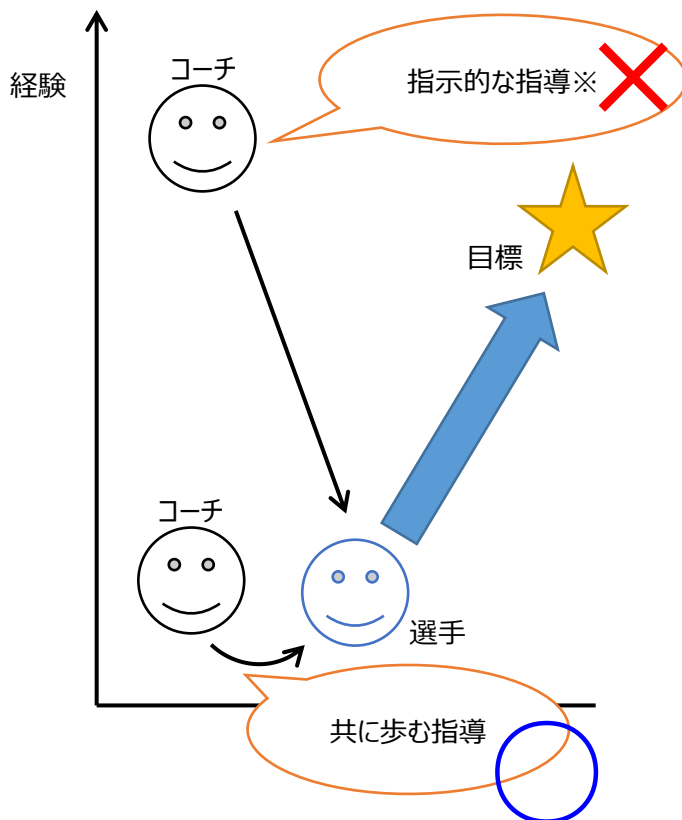
●5年生

- ・チームプレーでの攻守のやり方＝戦術を習得する
- ・常に動きながらプレーし、相手との駆け引きの観点で、個人戦術を身につける
- ・ひとつひとつのプレーが何のために、どうしたいのか、といった目的をもってプレーすることを習得する
- ・チームメイトとの競争により切磋琢磨し、お互いを高めあう

●6年生

- ・最終学年は試合が多くなるため、限られた練習時間で前の試合での課題をクリアしていく流れをつくる
- ・選手たち自身で雰囲気や状況を変える、試合運びや振り返りを行うなど、自発的に取り組む姿勢をはぐくむ
- ・相手を出し抜く、圧倒する、魅せるサッカー（アートなサッカー）をチームで作れ出す
- ・ジュニアユース世代に向けた準備をしていく

コーチは、個々の選手が進みたい方向を確認し目標設定をサポートするとともに、目標の達成に向け指示的な指導よりも目標に向かって共に歩む指導をおこないます。



※選手に危険が及ぶ事柄（差別、暴力、アンフェアなプレーなど）に対しては、指示的な指導により対処します

【選手起用の方針】

・試合での選手起用の判断について

サッカーにおいて試合は、選手にとっての活躍・成長の場です。上達の喜び、練習で磨いた技術や戦術への挑戦や、サッカーの楽しさ、みんなで戦うことの体験を重視し、出場時間に極端な差の出ないように配慮します。

またコーチは、学年ごとの取り組み目標とも照らし合わせ、選手の練習への取り組み状況、気持ちや態度、つま SC 内でのふるまい（リスペクトの有無）などを継続的に観察し、試合に応じた出場選手を決定します。

つま SC として重要視している大会（各学年の目標となる大会：全日本 U-12 サッカー選手権大会ほか 11 ブロック大会等）、試合などについては、学年監督や担当コーチが大会・試合への挑み方を相談のうえ出場体制を決めることがありますが、監督は、その起用内容について説明ができることを前提とします。

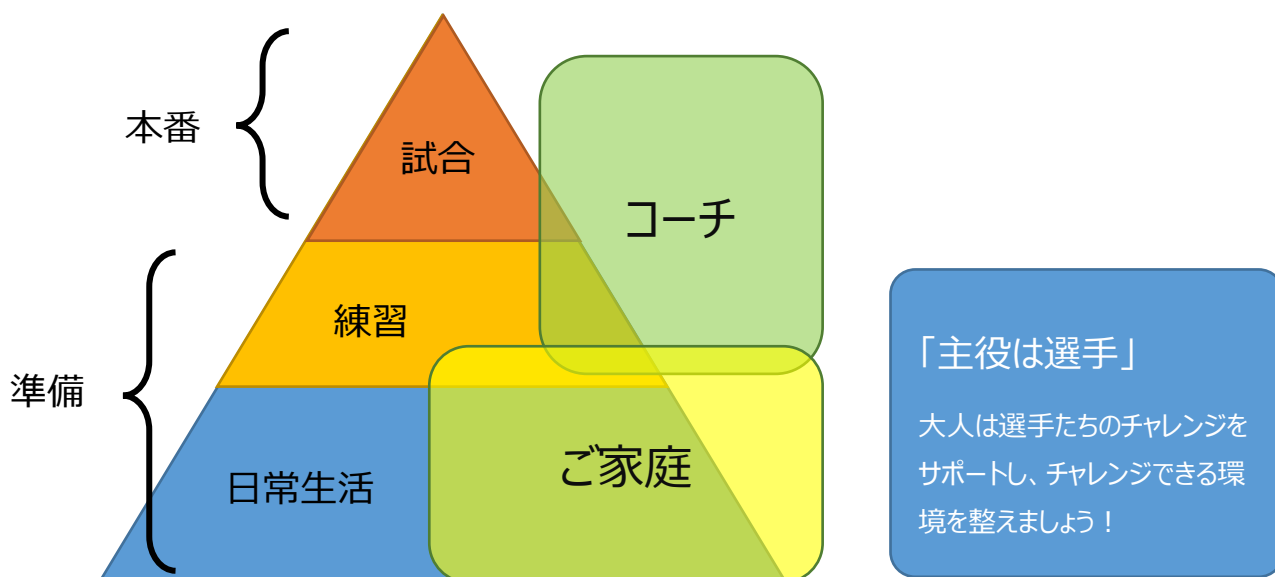
・上級生チームへの招集、トレセン活動への選出基準

コーチは、上級学年からの招集、およびトレセン活動への選出の際は、上記の選手起用の判断基準と併せ、上級生チームや選抜チームでプレーする際に危険がないか（フィジカル面）、力が発揮できるか（メンタル面）を考慮の上「機会にふさわしい準備ができていかどうか」を判断して選出を行います。

【大人のかかわり方について】

・自ら考え行動する選手を育てるために

試合やそれに向けての練習は、選手たち自身のものです。親御さん、コーチなどの大人は彼らの試合に出場することはできません。活動方針の「自分で考え、自分で行動」できることは、サッカーだけではなく選手たちが人として成長するうえで大切なことです。サッカーを通じて自ら考えることをサポートするために、「プレイヤーズセンタード＝主役は選手」を意識して、選手たちにかかわりましょう。



・試合での「つまサポーター」としてのふるまい

選手の活躍の舞台、試合。どのようにしたら、選手が準備してきた力を発揮できるでしょうか。

- リスペクトの精神で応援することを楽しみましょう

「主役は選手」であり、相手チーム選手にも声援を。選手が自ら決められるよう指示的な言葉を掛けない配慮を。

- 変えられないことから目を離しましょう

選手や審判、コンディションはコート外の声援では変えられません。選手を信じて応援しましょう。